

新町のさかなや夫婦物語

近年、行田の大長寺から江戸時代の忍城下で魚屋を営んだとある夫婦にまつわる一幅の掛け軸が見つかりました。今回はこの掛け軸から町人の人生をひも解いてみましょう。

忍藩主の国替えの年でもある文政6年（1823）、一組の夫婦が行田にやってきました。彼らの名は対地弥七とすみ。二人は武蔵国多摩郡七日市場（現・青梅市）と高麗郡阿須村（現・飯能市）の出身でしたが、ゆえあって行田に居を移してきたようです。

はじめは新町の岩瀬屋の助けで店と資金を借り、東屋松五郎と屋号を名乗って野菜や果物を売り始めます。その後、鮮魚や塩魚（魚の塩漬け）の商売をするようになってからは、ひと月に6度も江戸へ仕入れに赴き、商品を積んで売って商を10年間続けたといます。民衆の間でも経済的な格差が広がっていたこの時代において、行田の人々がよそ者

でもある夫婦を温かく迎え入れていた人情味がうかがえます。

ところが、天保2年（1831）の冬に松五郎は病に伏し、9年間歩くこともままなりません。その間、夫に代わって商売を切り盛りしたのが妻のすみでした。すみの支えのおかげもあり商売は引き続き繁盛し、二人とも還暦を迎えるまで生きました。

この掛け軸は妻・すみが夫に代わって江戸へ仕入れに向いていた行商の様子を絵師の狩野守常が描いたものです。夫婦が神仏の加護を願いつつ、懸命に努力したおかげで居場所を手にした教訓を子孫に伝えるために遺したこの作品からは、ひたむきな夫婦の絆がしのべれます。

（郷土博物館 澤村怜薫）



狩野守常筆 東屋松五郎妻すみ画賛
（郷土博物館蔵）

はじめまして



令和2年8月生まれのお子さんを募集します

- 6月1日～30日頃に電話またはEメールで広報広聴課（内線318）※応募要領は市ホームページをご覧ください。
- 応募者多数の場合は、7月2日金午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



令和2年6月生まれのおともだち



藤間 律ちゃん（前倉）
令和2年6月7日生まれ
父・智和さん 母・美夏さん
「優しく思いやりのある子に育ってね☆」



新井 瑠愛ちゃん（持田）
令和2年6月18日生まれ
父・竜也さん 母・なるみさん
「わが家の天使♡
誕生日おめでとう！」



野崎 暖翔ちゃん（富士見町）
令和2年6月20日生まれ
父・博之さん 母・景子さん
「元気に大きくなってるね♡
大好きだよ♡」



寺田 吏冴ちゃん（中里）
令和2年6月18日生まれ
父・幸司さん 母・恵理さん
「つよへ、かしくへ、
さわやかに育ってね」



安味 空来ちゃん（佐間）
令和2年6月1日生まれ
父・寿さん 母・亜喜美さん
「たくさんの幸せ
ありがとう♡」



小嶋 乙葉ちゃん（城西）
令和2年6月22日生まれ
父・翔太さん 母・沙紀さん
「可愛い笑顔に
癒されているよ♡」

今月の表紙

大きな被害をもたらす台風のシーズンが近づいてきました。自分自身や自分が大切だと思う人の命を守るために、平常時からできる備えや災害発生時の行動について再確認しましょう。



目指せ！友だち登録10,000人！
（現在8,000人）

行田市公式LINEの
友だち登録はこちらから！

●市政・イベント・防災などに関する行政情報を発信します。

ホームページ <https://www.city.gyoda.lg.jp>



環境にやさしい
植物油インキ

市報ぎょうだは
再生紙を
使用しています